

## 平成18年3月期第1四半期決算説明会Q&A概要

### 【第1四半期の業績に関するQ&A】

**Q1: 第1四半期は、計画に対して各部門の結果はどうだったのか？**

**A1:** 第3世代移動通信(3G)用計測器は、受注は堅調であったが、売上は一部第2四半期にずれ込んでいる。2G/2.5G用計測器は大きく落ち込んでおり、これが利益が落ちている主因である。計測器以外の事業については、ほぼ計画通りに推移した。地域別では、欧州の販社グループの売上が、特に汎用計測器の低迷により落ち込んだ。

**Q2: 第1四半期の「販売費及び一般管理費」が、前年同期に比べて約9億円増えているがなぜか？**

**A2:** 海外の販売体制・サポート強化の費用増などによる。海外の人員増は、顧客からの待たなしのサポート要求によるもので、当初の予算に入っていない部分も先行投資的に加速して行っている。足元の売上には反映できていないが、下期以降には成果が出る。

### 【業績見通しに関するQ&A】

**Q3: 中間期の下方修正において、売上が△10億円に対して、営業利益が△14億円と大幅であるが、その要因は？**

**A3:** 下方修正の事業別内訳は、「計測器」事業が売上△5億円、営業利益△12億円、「その他」事業が売上△5億円、営業利益△2億円である。計測器については、売上の減少に加えてA2で述べた販売経費増加の影響で利益が減少する見込みである。3G/3.5G用の売上は予定通りの見込みだが、2G/2.5G用の売上がかなり減少する見込みである。それを埋め合わせるべく、サイトマスタなどハンドヘルド製品の売上が順調であるが、利益的には2G/2.5G用計測器の高い利益率をカバーできていない。

**Q4: 計測器事業のなかのワイヤレス用計測器、そのなかの3G用計測器の売上高比率はどの程度か？**

**A4:** 04年度の実績は、ワイヤレス用は計測器の中の約6割弱、3G用はワイヤレスの中の約6割。これは第1四半期もほぼ同比率であったし、中間期の計画も同じ。

**Q5: 通期見通しは変更ないとのことだが、下方修正の可能性があるのではないか？**

**A5:** これから第2四半期での取り組み及び下期予算編成作業のなかで、下期での挽回を検討していく。

**Q6: 第1四半期で販管費などの固定費が明らかに増えているが、通期見通しに与える影響は？**

**A6:** 今年は通期の固定費が前年比10%程度増える計画である。第1四半期は季節的要因もあり抑制気味で推移するのだが、今期はその1/4が計上されている。今後は、受注状況に応じて経費抑制を図っていく。

**Q7: 通期計画を1ドル100円で想定しているが、円安の業績に与える影響は？**

**A7:** ドルに対しては予算レートより円安ではあるが、ユーロに対しては円高傾向にあり、事業的にはほぼ効果が相殺されるので、第1四半期での影響は小さかった。

### 【中期経営計画に関するQ&A】

**Q8: 従来の計画との差と、その要因はなにか？**

**A8:** 「利益ある成長」の基本方針は変わらない。04年計画の目標値「05年度の売上1000億円/営業利益100億円」は、達成が1年ずれる。その要因は(1)3Gサービスの立ち上がりの遅れ、(2)情報通信機器の売上低迷、のためである。

**Q9: 計測器のプロダクトミックスの変化により、今後、利益が低下すると考えられるが、それをどう補完していくのか？**

**A9:** 各国での3Gサービスの普及が本格化すれば、端末価格も下がるため、テストへの価格低下圧力が高まり利益率が下がると想定する。これに対してはコストダウンで利益確保策を図る。また、今後は3Gサービスのアプリケーションソフト開発用テストなど、より付加価値の高い製品を海外にも展開していくほか、IPネットワークにつなげる新しいアプリケーションを展開し、利益を確保していきたい。